

尼崎市提案型事業委託評価表

作成日 平成30年3月30日

事業名	市民福祉のつどい開催事業		
事業者の名称	NPO法人月と風と		
契約期間	平成29年 4月 1日 ~ 平成30年 3月31日		(1年目)
業務の概要	市民福祉のつどいの企画運営業務		
所管課・課長名	健康福祉局	障害福祉担当部	障害福祉政策担当課 富田 憲幸
評価対象期間	平成29年 4月 1日 ~ 平成30年 2月28日		

評価項目	説明	評価	評価コメント
1 事業の効果		B	当該事業に関わりのなかった市民(障害のある方を含む)が実行委員会等で関わりを持つことができ、潜在的なニーズを掘り起こし、事業への参加者が増加した。また、実行委員会等での交流や参加者の増加により、障害のある方もない方も相互理解を深めるなど、シチズンシップ等の向上につながった。
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか		
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
2 事業実施状況		B	事業理念や方針を明確にし、ワークショップや実行委員会の意見を基に、積極的に事業等の企画立案を行っていた。
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか		
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
3 事業執行体制		B	事故時等の体制等が整備されている。人員配置については、当初事業計画よりも事業規模が拡大したため、安定的かつ合理的な配置を行うことができなかった。
人員配置	合理的な配置であるか		
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

主に取組んでいる事業内容・進捗状況	
<p>開催に向けて、ワークショップ(2回)、実行委員会(6回)、出店者・ボランティアスタッフへの説明会(各1回)を実施した。また、SNSでの情報発信や尼崎市立の全小学校へのチラシ配布、コミュニティ掲示板へのポスター掲示などによる広報活動を実施した。</p> <p>事業名称は「ミーツ・ザ・福祉」と変更し、平成29年11月11日(土)10時から16時に橘公園・橘球場で開催し、参加者は約3,000人(前年度約2,000人)、ブース出店は62店舗(前年度30店舗)と当初の目標を達成することができた。また、ワークショップや実行委員会での意見を参考に、ステージパフォーマンス(10組)の内容やワークショップの実施等を決定した。</p> <p>次年度に向けては、参加者等の意見を聞くことを目的に開催当日にアンケートを実施した。また、開催後には振り返り会を開催し出店者やボランティア等の参加者の意見収集を行った。</p>	

取組んでいる事業内容等の評価	
<p>今まで当該事業に関わりのなかった方にも関心をもってもらえるよう、広報のデザインを工夫したり、今まで積極的に参加していなかった障害のある方にも実行委員会等へ出席してもらえるよう、障害当事者団体に呼び掛けたり、潜在的なニーズの掘り起こしを行い、参加者の増加につながった。</p> <p>実行委員会等での交流や参加者の増加、来場者が参加できる障害者体験コーナー等により、障害のある方もない方も相互理解を深めるなど、シチズンシップ等の向上につながった。</p>	

総合評価	評価の理由、今後の課題等
B	<p>以前までは参加のなかった新たな層の関心を集めるよう、積極的な企画立案を行い、以前より多くの市民が関わる事ができ、シチズンシップの向上にもつなげることができた。準備する過程で当初の事業計画から変動がみられたため、次年度以降は当初事業計画に沿った事業実施に努められたい。</p>

* 評価は、A～Dの4段階評価とする。

* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。

* (評価項目2, 3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。

尼崎市提案型事業委託評価表

提出日 平成31年3月30日

事業名	市民福祉のつどい開催事業		
事業者の名称	NPO法人月と風と		
契約期間	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日		(2年目)
業務の概要	市民福祉のつどいの企画運営業務		
所管課・課長名	健康福祉局	障害福祉担当部	障害福祉課 城間 努
評価対象期間	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 2月28日		

評価項目	説明	評価	評価コメント
1 事業の効果		A	イベント当日までにワークショップ等、障害について知る場を多く設けた。その全ての会議で手話通訳、要約筆記をつけるなど、障害のある方への配慮がなされている。また参加者がやってみよう企画を考え、そこに仲間を集めるマイプロジェクト制を採用し、参加者主体になるよう促し、市民一人一人のシチズンシップ等の向上につながった。
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか		
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
2 事業実施状況		B	事業理念や方針を明確にし、昨年度からのノウハウの積み重ねにより計画的に事業実施した。
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか		
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
3 事業執行体制		B	事業に賛同した多くのボランティアを呼び込むことに成功。事業規模拡大に対応している。プロジェクトごとの担当者を定め、事故時等の責任の所在を明確にしている。
人員配置	合理的な配置であるか		
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

主に取組んでいる事業内容・進捗状況
開催に向けてワークショップ(3回)、ミーティング(4回)、出店及び出演者への説明会(1回)、ボランティアスタッフへの説明会(2回)を実施した。SNSでの情報発信、尼崎市立の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、私立幼稚園へのチラシ配布や、コミュニティ掲示板へのポスター掲示などによる広報活動を実施した。 イベント当日は平成30年11月10日(土)10時から16時に橘公園野球場で開催し、参加者は約4,000人(前年度約3,000人)、ブース出店は62店舗(前年度同数)と当初の目標を前年に引き続き達成した。 また開催当日にアンケート、開催後に振り返り会(2回)を実施し、意見収集を図った。

取組んでいる事業内容等の評価
提案型採択前と比べ、参加者数、店舗数が大幅に増となり、幅広く障害のある方とない方との交流の場、相互理解の場を創出した。ワークショップ等の会議体やイベント当日には情報保障(手話通訳、要約筆記)の配慮がなされている。前年度イベント当日のみ参加した方が、今年度はプロセスに参加するようになり、障害についての相互理解の輪が広がっている。マイプロジェクト制を導入し、参加者主体でイベントを作り上げたり、多くのボランティアが関わったりと、市民のシチズンシップの向上につながった。 また本事業での交流がきっかけで、有志による福祉に関する勉強会(「ミーツの学校」)や障害のある方と児童との交流会(園田小学校の総合の授業にて)が実施され、新たな障害に関する交流の場が生まれている。

総合評価	評価の理由、今後の課題等
A	障害のある方とない方との交流、障害のある方同士の交流を多く設け、イベント当日だけではなく、一年を通して、障害について考える機会を創出し、多くのボランティアが関わるなど、市民一人一人のシチズンシップの向上につながった。

* 評価は、A~Dの4段階評価とする。

* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1~3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。

* (評価項目2, 3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。

尼崎市提案型事業委託評価表

	評価実施年月日	令和2年1月10日
	作成年月日	令和2年4月28日
事業名	市民福祉のつどい開催事業	
事業者の名称	NPO法人月と風と	
契約期間	平成31年 4月 1日 ~ 令和2年 3月31日 (3年目)	
業務の概要	市民福祉のつどいの企画運営業務	
所管課・課長名	健康福祉局 障害福祉担当部 障害福祉課 城間 努	
評価対象期間	平成31年 4月 1日 ~ 令和2年 3月31日	

評価項目	説明	評価	評価コメント
1 事業の効果		A	イベント当日までにワークショップ等、障害について知る場を多く設けその全ての会議において手話通訳、要約筆記を配置するなど、障害のある人への配慮がなされている。昨年度から参加者が主体的にプロジェクトを運営・実施するマイプロジェクト制を採用していたが、今年度は、障害のある人が主体となってプロジェクトを立ち上げ、運営した「ミーツde/パンデミック」や「ミーツ運動会」などの実現が大きな成果となり、更なる交流を生み、人とのつながりが広がったことにより、市民のシチズンシップ等の向上につながった。
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか		
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
2 事業実施状況		B	事業理念や方針を明確にし、平成29年度からのノウハウの積み重ねにより計画的に事業実施した。
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか		
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
3 事業執行体制		B	事業に賛同した幅広い世代の多くのボランティアを活用しての大規模な事業実施が実現している。また、プロジェクトや役割ごとにリーダーを定めて、事故時等の責任の所在を明確にした。
人員配置	合理的な配置であるか		
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

主に取組んでいる事業内容・進捗状況
<p>開催に向けてワークショップ(2回)、ミーツミーティング(6回)、出店者説明会及び交流会(1回)、ボランティアスタッフへの説明会(2回)を実施した。Facebook等のWEBサイトとSNSでの情報発信、尼崎市立の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、私立幼稚園へのチラシ配布や、コミュニティ掲示板へのポスター掲示などによる広報活動を実施した。</p> <p>イベント当日は令和元年11月9日(土)10時から16時に橘公園野球場で開催し、参加者は約4,000人、ブース出店は68店舗(前年度62店舗)と当初の目標を前年に引き続き達成した。</p> <p>また開催当日にアンケート、開催後に振り返り会(2回)を実施し、意見収集を図った。</p>

取組んでいる事業内容等の評価
<p>本制度による委託前と比べ、参加者数、店舗数が過去最高の増加となり、幅広く、多様な分野で障害のある人となない人との交流の場、相互理解の場を数多く創出した。ワークショップや実行委員会などのミーティング、イベント当日には情報保障(手話通訳、要約筆記)の配慮がなされている。今年度は新たにに出店者が、会場で体験・交流するための「ボランティア派遣制度」を導入し、サポートを実施し、ボランティア同士の交流も多数生まれ障害についての相互理解の輪が広がった。</p> <p>また本事業での交流がきっかけで生まれた派生プロジェクトである、有志による福祉に関する勉強会(「ミーツの学校」)や今年度新たに「花火・de・ミーツ」「ミーツ・ザ・福祉サミット」の活動も生まれ、身体障害者福祉センターでは、ボランティア育成を目的とした「やっちゃん部」の講座に交流者が参加するなど、新たな活動の循環が始まってきている。</p>

総合評価	評価の理由、今後の課題等
A	<p>障害のある人となない人との交流、障害のある人同士の交流や繋がりを持続的に広げて、イベント当日だけでなく、一年を通して、障害について考える機会や障害のある人が様々な分野で活躍する場を創出し、幅広い世代の多くのボランティアが関わるなど、市民一人一人のシチズンシップの更なる向上につながった。</p> <p>今後も多くの活動を広げていき、更なる充実を図っていく必要があるが、障害のある人がより一層、主体者として参加してもらえるような仕掛けや効果的なアプローチが課題である。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染対策を講じながらの事業運用等が大きな課題である。</p>

* 評価は、A～Dの4段階評価とする。

* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。

* (評価項目2, 3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。